

RS-422・485／LAN 変換アダプタ

BLC-200

セットアップマニュアル

**Bits
Lan
Converter**

本製品を正しくご利用いただくために
この取扱説明書をよくお読みください。
また、お読みになりました後もすぐ取り出せる
場所に保管して、必要なときにご活用ください。



株式会社

ビット

はじめに

このたびは RS-422・485/LAN 変換アダプタ「BLC-200」をお求めいただき、誠にありがとうございます。

本書は LAN アダプタの動作に必要な各種パラメータ「動作パラメータ」のセットアップ、ユーザプログラムのダウンロードの方法およびシステム（カーネルプログラム）のダウンロード方法について説明します。

本書は BLC-200 を対象とします。本書では、説明のため「本製品」と称します。

製品それぞれの仕様ならびに外観、各部名称などはそれぞれの取扱説明書をご覧ください。

注意

- ・ 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられております。
- ・ 本書に記載された内容は予告なく変更する場合があります。
- ・ 本書の内容については万全を期していますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきのことがありましたら弊社営業までご一報ください。
- ・ 弊社では、製品の運用を理由とする損失、逸失利益などの請求につきましては、本書の不審点や誤り、記載漏れなどに関わらず、いかなる責任も負いかねますのであらかじめご了承ください。
- ・ 本書に記載される会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

目 次

安全に使用するための注意事項	1
使用中に異常が発生したら	1
取り扱い上の注意	1
1 概要	2
2 動作モードの選択	2
3 動作パラメータ	3
3-1 LAN設定	5
3-2 SNMP設定	8
3-3 シリアル設定	10
3-4 システム設定	12
3-5 拡張設定	12
4 動作パラメータ設定方法	16
4-1 WEBからの設定	16
4-2 シリアルインタフェースからの設定	16
4-3 TELNETからの設定	16
4-4 FTPからの設定	17
5 WEB設定メニュー	20
5-1 アクセス方法	20
5-2 ユーザ認証	20
5-3 WEBメインメニュー	20
5-4 動作パラメータの設定・参照メニュー	21
6 設定メニュー	26
6-1 操作方法	26
6-2 トップメニュー	26
6-3 LAN設定メニュー	27
6-4 シリアル設定メニュー	32
6-5 SNMP設定メニュー	36
6-6 システム設定メニュー	39
6-7 拡張設定項目 1～8 設定メニュー	41
6-8 設定ファイルメニュー	44
6-9 プログラムダウンロード	45
6-10 プログラム一覧	45
7 注意事項・制限事項	45
8 ユーザプログラム ダウンロード方法	46
8-1 FTPクライアントからのダウンロード	46
8-2 シリアルインタフェースからのダウンロード	46
9 カーネルプログラム ダウンロード方法	47
9-1 FTPクライアントからのダウンロード	47
9-2 シリアルインタフェースからのダウンロード	47
10 シリアルケーブル結線表	48

安全に使用するための注意事項



警告

下記の事項を必ず守って使用してください。

- ・ ケーブルを接続するときは、本体もしくは、周辺機器側の電源プラグを AC コンセントから抜いてください。AC コンセントに接続している機器があると、思わぬ所から電流が流れ感電する可能性があります。
- ・ 電源は正しい電源を使用してください。異なる電圧で使用しますと、感電、発煙、火災などの原因となります。
- ・ お客様による改造、修理などは絶対にしないでください。故障の原因となります。

使用中に異常が発生したら



警告

下記のような状態になりましたら、火災・感電の原因となります。すぐに機器のプラグをACコンセントから抜き、販売店または弊社営業まで修理を依頼してください。

- ・ 煙が出る、変な臭いがするなどの異常状態のときは、すぐに使用をやめてください。
- ・ 異物が入ったり水などがかかったら、すぐに使用をやめてください。
- ・ 手で触れられなくなるほど熱くなっていたら、すぐに使用をやめてください。

取り扱い上の注意

- ・ 落としたり堅いものにぶつけるなどして強い衝撃を与えないでください。
- ・ 静電気は本製品の故障の原因となることがあります。静電気による損傷を防ぐため、本製品の設置時や設定時などで本製品に触れる場合は、身近な金属（アルミサッシやドアノブなど）に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。

1 概要

本製品の使用に際しては、動作に必要な IP アドレスなど各種動作パラメータを設定する必要があります。また、必要に応じてユーザプログラムをダウンロードして動作させることができます。本製品では、これら設定ないしダウンロードを WEB から行う方法、シリアルインタフェースから行う方法、TELNET から行う方法、FTP から行う方法、専用ツール「BLC-200 リモートセットアップ」から行う方法の 5 種類を用意しています。

また、本製品のシステムがバージョンアップした場合にカーネルプログラムをダウンロードする必要があります。カーネルプログラムのダウンロードはシリアルインタフェースから行う方法、FTP から行う方法の 2 種類を用意しています。

※ 専用ツール「BLC-200 リモートセットアップ」からの設定方法については、別冊「BLC-200 リモートセットアップ オペレーションマニュアル」を参照してください。

2 動作モードの選択

動作モードには以下のモードがあり、本製品の電源投入後、モードスイッチ（ロータリスイッチ）の設定状態を読み本製品の動作を決定します。

本書では、「ローダモード」および「設定モード」について説明します。

設 定	動作モード	機 能
0	運用モード	動作パラメータにて指定されたプログラムが動作する
1		
2		
3		
4	コマンドモード	専用コマンドにて設定・参照を行う
5	設定禁止	—
6	ローダモード	カーネルのダウンロードを行う
7	設定モード	動作パラメータの設定およびユーザプログラムのダウンロードを行う
8	初期値設定モード	初期値パラメータにて設定モード動作
9	設定禁止	—

！ 注意 ！

- ・ モードスイッチは電源投入時の設定状態が有効になります。従って通電中に変更しても動作モードは変わりません。設定変更後は、本製品の電源を再投入するかリセットを行ってください。
- ・ モードスイッチを設定禁止の状態にしないでください。

3 動作パラメータ

動作パラメータは以下の項目があります。

	項目	名称	設定値	初期値
LAN 設定	自 IP アドレス	OwnIP	999.999.999.999	192.168.200.254
	自ポート番号	OwnPort	99999	257
	宛先 IP アドレス	DestIP	999.999.999.999	2.2.2.2
	宛先ポート番号	DestPort	99999	514
	デフォルトゲートウェイ	Gateway	999.999.999.999	2.2.2.2
	サブネットマスク	Subnet	999.999.999.999	255.255.255.0
	コネクトタイマ	ConnectTimer	999	2
	キープアライブタイマ	KeepAliveTimer	999	10
	無通信監視タイマ	IdleTimer	999	0
	クライアント接続契機	ClientConnect	0 または 1	1
	ユーザ名	UserName	半角 15 文字	なし
	パスワード	Password	半角 15 文字	なし
	ファイルターミネータ	FileTerminator	文字数と文字コード	0,0,0
	BOOTP 設定	BOOTP	有効／無効	無効
	DHCP 設定	DHCP	有効／無効	無効
	オートネゴシエーション設定	AutoNegotiation	自動／100M 固定／10M 固定	自動
	MTU 値	Mtu	9999	1500
シリアル 設定	回線速度	BaudRate	9999999	9600
	データ長	DataLen	7 または 8	8
	パリティ	Parity	なし／偶数／奇数	なし
	ストップビット長	StopBit	1 または 2	1
	フロー制御	Flow	なし／RTS/CTS／XON/XOFF	なし
	レコードターミネータ	Record Terminator	文字数と文字コード	0,00,00
	コネクション情報通知	DtrStatus	有効／無効	無効
	コネクション監視	DsrStatus	有効／無効	無効
	アイドルタイマ	IdleTimer	0～9999ms	0
SNMP 設定	SNMP 設定	SNMP	有効／無効	無効
	Trap 先 IP	TrapIP	999.999.999.999	0.0.0.0
	識別番号 (※1)	ObjectID	半角 15 文字	なし
	GET コミュニティ名	GetCommunity	半角 15 文字	Public
	SET コミュニティ名	SetCommunity	半角 15 文字	Public
	TRAP コミュニティ名	TrapCommunity	半角 15 文字	Public
	Contact (※2)	Contact	半角 64 文字	なし
	Location (※2)	Location	半角 64 文字	なし
	Name (※2)	Name	半角 64 文字	なし
システム 設定	Trap 設定	AuthenTrap	有効／無効	無効
	起動プログラム名 1～16	Program1 ～Program16	半角 12 文字	なし
	LAN デフォルトプロトコル名	LANDefault	半角 12 文字	SockUdp
	RS デフォルトプロトコル名	RSDefault	半角 12 文字	Serial

	項目	名称	設定値	初期値
拡張設定	送受信イネーブル制御切り替え	RS Enable	"<送信>,<受信>" "99","TXE" "RTS","DTR", "NONE"	"NONE,NONE"
	送信前無通信検出時間	RS IdleTime	"999"(0~100)ms	"0"
	エコーチェック	RS EchoChk	"OFF" (なし) "ON" (あり)	"OFF"
	XON/XOFF コード	RS Xonoff Code	"FF,FF" XON コード, XOFF コード	"11,13"
	拡張回線速度	RS ExBps	"99,99,999" "" (設定なし)	""
	制御線入力	RS DsrCts	"<DSR>,<CTS>" "ON","OFF", "DTR","RTS","IN", "CTS"	"DTR,IN"
	ソフトウェアフロー制御タイマ	RS SoftTime	"0"~"99999"	"0"
汎用設定	汎用設定レジスタ	Reg0	半角 16 文字	""

※1 SNMP 設定項目の識別番号は企業番号以降の設定となります。

※2 SNMP 設定項目の Contact、Location、Name、Trap 設定は SNMP マネージャからの SetRequest により内容が変更する場合があります。

3-1 LAN設定

LAN 側の動作に必要なパラメータを設定します。

自 IP アドレス

本製品の IP アドレスを設定します。

設定フォーマットは [999.999.999.999] で、設定範囲は [999 がそれぞれ 0～255 の 10 進データ] です。ただし [0.0.0.0]、[255.255.255.255] は設定できません。

自ポート番号

本製品のポート番号を設定します。ソケットサーバのリッスンポート番号です。

設定フォーマットは [99999] で、設定範囲は [0～65535 の 10 進データ] です。

ウェルノウンポート番号以外を推奨します。

※ ウェルノウンポート番号とは、各プロトコルにあらかじめ定められているポート番号です。

宛先 IP アドレス

宛先 IP アドレスを設定します。このアドレスはソケットクライアントが参照します。

設定フォーマットは [999.999.999.999] で、設定範囲は [999 がそれぞれ 0～255 の 10 進データ] です。

宛先ポート番号

宛先ポート番号を設定します。このポート番号はソケットクライアントが参照します。

設定フォーマットは [99999] で、設定範囲は [0～65535 の 10 進データ] です。

デフォルトゲートウェイ

デフォルトゲートウェイの IP アドレスを設定します。

設定フォーマットは [999.999.999.999] で、設定範囲は [999 がそれぞれ 0～255 の 10 進データ] です。ただし [0.0.0.0]、[255.255.255.255] は設定できません。

サブネットマスク

サブネットマスクの値を設定します。

設定フォーマットは [999.999.999.999] で、設定範囲は [999 がそれぞれ 0～255 の 10 進データ] です。

デフォルトゲートウェイ IP アドレス、サブネットマスクとの関係を以下に示します。

- ・ 接続要求時に宛先 IP アドレスと自 IP アドレスを、それぞれサブネットマスクで AND をとり比較します。
- ・ 比較した結果が一致すれば、宛先 IP アドレスがその物理ネットワークに存在すると判断して、宛先 IP アドレスに送信します。
- ・ 一致しなければ宛先 IP アドレスは他のネットワークに存在すると判断して、デフォルトゲートウェイに送信します。

コネクトタイマ

ソケットでコネクトするときのタイムアウト時間を秒単位で設定します。
設定フォーマットは [999] で、設定範囲は [2～120 の 10 進データ] です。

クライアント接続契機（通信トリガフラグ）

この設定はソケットクライアントのとき参照します。
設定範囲は [0（MANUAL：無効）または 1（AUTO：有効）] です。
値が 0 の場合、ソケットから出力するデータがあるときにコネクトします。
値が 1 の場合、起動すると直ちにコネクトし、接続が切れると自動的に再接続します。

無通信監視タイマ

TCP ソケットが接続されたあと、データの送受信がない場合にソケット接続を切断するまでの時間を秒単位で設定します。(本パラメータはソケットクライアント動作時に有効になります。)

設定フォーマットは [999] で、設定範囲は [0~240 の 10 進データ] です。
値が 0 の場合、切断要求を発行しません。

ユーザ名

ログインユーザ名を設定します。この設定は FTP サーバと TELNET サーバが参照します。

設定範囲は [半角 15 文字までの文字列データ] です。アルファベットの大文字と小文字は区別します。

パスワード

ログインパスワードを設定します。この設定は FTP サーバと TELNET サーバが参照します。

設定範囲は [半角 15 文字までの文字列データ] です。アルファベットの大文字と小文字は区別します。

ファイルターミネータ

ファイルの区切り文字を設定します。この設定は FTP サーバが参照します。

1) FtpSv、シリアル、TelnetSv からの設定

設定フォーマットは [9,XX,XX] で、設定範囲は [9 が 0~2、XX がそれぞれ 00~FF の 16 進データ] です。

先頭の値が 0 の場合、バッファに存在するすべてのデータを 1 つのファイルとみなします。

先頭の値が 1 の場合、次の XX の値と一致する文字コードをファイルの区切り文字とみなします。

先頭の値が 2 の場合、連続する 2 文字の文字コードが XX,XX の値と一致するときにファイルの区切りとみなします。

2) WEB からの設定

区切り文字数は [0, 1, 2] 文字から選択します。

区切り文字の設定フォーマットは [XXxx] で、設定範囲は [XX および xx それぞれ 00~FF の 16 進データ] です。

区切り文字数が 0 の場合、バッファに存在するすべてのデータを 1 つのファイルとみなします。

区切り文字数が 1 の場合、XX の値と一致する文字コードをファイルの区切り文字とみなします。

区切り文字数が 2 の場合、連続する 2 文字の文字コードが XXxx の値と一致するときにファイルの区切りとみなします。

BOOTP 設定

BOOTP の使用の有無を設定します。

設定範囲は [0 (DISABLE : 無効) または 1 (ENABLE : 有効)] です。

設定が有効の場合、起動時に BOOTP リクエストを発行して IP アドレスを取得します。アドレスが取得できなかった場合は、設定されている IP アドレスでそのまま動作します。

DHCP 設定

DHCP の使用の有無を設定します。

設定範囲は [0 (DISABLE : 無効) または 1 (ENABLE : 有効)] です。

設定が有効の場合、起動時に DHCP リクエストを発行して IP アドレスを取得します。アドレスが取得できなかった場合は、設定されている IP アドレスでそのまま動作します。

オートネゴシエーション設定

オートネゴシエーションの有無を設定します。

設定範囲は [0 (AUTO : 自動) または 1 (100M : 100M 固定) または 2 (10M : 10M 固定)] です。

本設定項目は、シリアルインタフェースまたは TELNET、WEB から設定可能です。FTP からは設定値の参照・変更はできません。

キープアライブタイマ

TCP ソケットが接続されたあと、データの送受信がないときに、接続相手の存在確認のパケット (Keep-Alive パケット) を送信する間隔を秒単位で設定します。

設定フォーマットは [999] で、設定範囲は [0~240 の 10 進データ] です。

値が 0 の場合、Keep-Alive パケットを送信しません。

7 回連続して Keep-Alive パケットに対する応答がないと接続を切断します。

MTU 値

パケットの MTU (最大転送単位) を設定します。

設定フォーマットは [9999] で、設定範囲は [512~1500 の 10 進データ] です。

3-2 SNMP設定

SNMP の動作パラメータを設定します。

SNMP 設定

SNMP プロセスの起動を設定します。

設定範囲は [0 (DISABLE : 無効) または 1 (ENABLE : 有効)] です。

値が 0 の場合、SNMP 機能が無効となります。

値が 1 の場合、SNMP プロセスが起動し、SNMP の機能が有効となります。SNMP マネージャからの標準 MIB に対して応答をします。

Trap 先 IP

SNMP の Trap を送信する SNMP マネージャの IP アドレスを設定します。

設定フォーマットは [999.999.999.999] で、設定範囲は [999 がそれぞれ 0~255 の 10 進データ] です。「0.0.0.0」を設定すると Trap の送信はされません。

識別番号

企業拡張 MIB の企業番号 (OBJECT-ID) を設定します。

設定フォーマットは、[半角 15 文字までの文字列データ] で、OBJECT-ID(“.” 区切りの 10 進データ)となります。設定値が NULL の場合、「23441」を使用します。

GET コミュニティ名

GET リクエスト時のコミュニティ名を設定します。

設定範囲は [半角 15 文字までの文字列データ] です。アルファベットの大文字と小文字は区別されそのまま設定されます。

SET コミュニティ名

SET リクエスト時のコミュニティ名を設定します。

設定範囲は [半角 15 文字までの文字列データ] です。アルファベットの大文字と小文字は区別されそのまま設定されます。

TRAP コミュニティ名

Trap 時のコミュニティ名を設定します。

設定範囲は [半角 15 文字までの文字列データ] です。アルファベットの大文字と小文字は区別されそのまま設定されます。

Contact

標準 MIB system グループ sysContact を設定します。

設定範囲は [半角 64 文字までの文字列データ] です。アルファベットの大文字と小文字は区別されそのまま設定されます。

管理者、管理部門名、内線番号などを設定します。

Location

標準 MIB system グループ sysLocation を設定します。

設定範囲は [半角 64 文字までの文字列データ] です。アルファベットの大文字と小文字は区別されそのまま設定されます。

設置されている物理的な場所を表すような内容を設定します。

Name

標準 MIB system グループ sysName を設定します。

設定範囲は [半角 64 文字までの文字列データ] です。アルファベットの大文字と小文字は区別されそのまま設定されます。

管理のためにつけられた名称、ドメイン名などを設定します。

Trap 設定

標準 Trap 送信の有効／無効を設定します。

設定範囲は [0 (DISABLE : 無効) または 1 (ENABLE : 有効)] です。

値が 0 の場合、authentication failure (不正アクセス) Trap 送信が無効となります。

値が 1 の場合、authentication failure (不正アクセス) Trap 送信が有効となります。

3-3 シリアル設定

シリアルインタフェースの通信パラメータを設定します。

回線速度～フロー制御

選択の種類は以下に示す通りです。

項目名称	設定内容	設定値
回線速度	1,843,200bps	1843200
	921,600bps	921600
	614,400bps	614400
	460,800bps	460800
	230,400bps	230400
	115,200bps	115200
	57,600bps	57600
	38,400bps	38400
	19,200bps	19200
	9,600bps	9600
	4,800bps	4800
	2,400bps	2400
	1,200bps	1200
	300bps	300
	110bps	110
データ長	7bit	7
	8bit	8
パリティ	なし	N
	偶数	E
	奇数	O
ストップビット長	1bit	1
	2bit	2
フロー制御	なし	0
	RTS/CTS	1
	XON/XOFF	2

レコードターミネータ

シリアル接続機器から受信したデータのレコードの区切り文字を設定します。この設定は FTP サーバ、ソケットサーバ、ソケットクライアント、UDP スルーが参照します。

1) FtpSv、シリアル、TelnetSv からの設定

設定フォーマットは [9,XX,XX] で、設定範囲は [9 が 0～2、XX がそれぞれ 00～FF の 16 進データ] です。

先頭の値が 0 の場合、レコードの区切りはないものとみなします。

先頭の値が 1 の場合、次の XX の値と一致する文字コードをレコードの区切り文字とみなします。

先頭の値が 2 の場合、連続する 2 文字の文字コードが XX,XX の値と一致するときにレコードの区切りとみなします。

2) WEB からの設定

区切り文字数は [0, 1, 2] 文字から選択します。

区切り文字の設定フォーマットは [XXxx] で、設定範囲は [XX および xx それぞれ 00～FF の 16 進データ] です。

区切り文字数が 0 の場合、レコードの区切りはないものとみなします。

区切り文字数が 1 の場合、XX の値と一致する文字コードをレコードの区切り文字とみなします。

区切り文字数が 2 の場合、連続する 2 文字の文字コードが XXxx の値と一致するときにレコードの区切りとみなします。

コネクション情報通知

コネクション状態をシリアル DTR 信号にて通知する機能を設定します。DTR 信号の ON/OFF により、シリアルに接続した機器が LAN のコネクション状態を検出することが可能となります。この設定はソケットサーバ、ソケットクライアントが参照します。

設定範囲は [0 (DISABLE : 無効) または 1 (ENABLE : 有効)] です。

値が 0 の場合、コネクション状態の通知が無効となります。

値が 1 の場合、コネクションが開設すると DTR ON、切断すると DTR OFF を出力します。

コネクション監視

コネクションの接続・切断をシリアル DSR 信号により制御する機能を設定します。シリアルに接続した機器が LAN のコネクションを DSR 信号の ON/OFF により、制御することが可能となります。この設定はソケットサーバ、ソケットクライアントが参照します。

設定範囲は [0 (DISABLE : 無効) または 1 (ENABLE : 有効)] です。

値が 0 の場合、コネクション監視が無効となります。

値が 1 の場合、動作アプリケーション毎に以下の動作を行います。

- ・ ソケットサーバ動作時
DSR ON で接続要求を受信可能とし、DSR OFF でコネクションを切断して接続要求を受信不可にします。
- ・ ソケットクライアント動作時
DSR ON でコネクションを開設し、DSR OFF でコネクションを切断します。

アイドルタイマ

シリアル受信キャラクタ間の空き時間（アイドル）により、シリアル受信データの区切りとしてソケットに送信するタイマを ms 単位で設定します。この設定は FTP サーバ、ソケットサーバ、ソケットクライアント、UDP スルーが参照します。

設定フォーマットは [9999] で、設定範囲は [0～9999 の 10 進データ] です。

3-4 システム設定

通常動作モードで動作させるプログラム名を設定します。

起動プログラム名 1～16

通常動作モードで動作させるプログラム名を、システム組込み済みプログラム、ユーザプログラムの中から選択して設定します。

設定範囲は「半角 12 文字までの文字列データ」です。アルファベットの大文字と小文字は区別します。

LAN デフォルトプロトコル名

起動プログラム名 1～16 の設定がすべて無効の場合に起動される、LAN 側のプログラム名を設定します。

設定範囲は「半角 12 文字までの文字列データ」です。アルファベットの大文字と小文字は区別します。

RS デフォルトプロトコル名

起動プログラム名 1～16 の設定がすべて無効の場合に起動される、シリアルインタフェース側のプログラム名を設定します。

設定範囲は「半角 12 文字までの文字列データ」です。アルファベットの大文字と小文字は区別します。

3-5 拡張設定

シリアルインタフェースの拡張設定を設定します。

送受信イネーブル制御切り替え

送信イネーブル制御、受信ディセーブル制御を設定します。

1 番目の項目が送信制御、2 番目の項目が受信制御を意味します。

設定範囲と設定内容は次の通りです。

書式

[XXXX,YYYY]

内容

<送信>

設定値	内容
0～16	送信データに従ってデータ送出期間のみ自動で送信イネーブルとする 送信イネーブル／ディセーブルタイミングを設定回線速度に対するビット数指定 (0～16) により設定
RTS	RTS 信号 ON 間送信イネーブル
DTR	DTR 信号 ON 間送信イネーブル
NONE	常に送信イネーブル

<受信>

設定値	内容
TXE	送信イネーブル信号と連動し、送信イネーブル状態で受信ディセーブル、送信ディセーブル状態で受信イネーブルとする
RTS	RTS 信号 OFF 間受信イネーブル
DTR	DTR 信号 OFF 間受信イネーブル
NONE	常に受信イネーブル

送信前無通信検出時間

シリアルインタフェースからのデータ送信前に、無通信状態の検出を行なうか設定します。

設定フォーマットは [999] で、設定範囲は [0~100 の 10 進データ] です。

0 を設定すると、無通信状態の検出は行ないません。1~100 までを設定した場合、無通信状態の検出が有効となり、設定された期間の無通信検出後にデータ送信を行ないます。単位は ms です。

エコーチェック

シリアル送信データのエコーチェックを行なうか設定します。

設定範囲は[“ON”または“OFF”]です。

XON/XOFF コード

シリアル通信におけるソフトウェアフロー制御で使用するコードを設定します。

設定範囲は[FF,FF]で、それぞれ 16 進数のコードを指定します。1 番目の項目が XON コード、2 番目の項目が XOFF コードを意味します。

拡張回線速度

拡張回線速度を設定します。

拡張回線速度が設定されている場合、回線速度に設定された値は無視されます。

設定範囲と設定内容は次の通りです。

BPS = $P\phi / \langle \text{サンプリング値} \rangle / \langle \text{分周値} \rangle / \langle \text{カウント値} \rangle$
($P\phi = 29491200\text{Hz}$)

書式

[XX,YY,ZZZ]

内容

設定値	内容
XX(サンプリング値)	サンプリング 2 桁 (5 : 1/5、11 : 1/11、13 : 1/13、16 : 1/16、29 : 1/29)
YY(分周値)	分周 2 桁 (1 : $P\phi / 1$ 、4 : $P\phi / 4$ 、16 : $P\phi / 16$ 、64 : $P\phi / 64$)
ZZZ(カウント値)	カウント指定 3 桁 (1~256)
,	区切り記号 (0x2c)

設定例

[11,16,3] 55854.55bps 設定
[11,1,1] 2681018.18bps 設定

制御線入力

DSR/CTS 制御線の入力元を設定します。
設定範囲と設定内容は次の通りです。

書式

[XXX,YYY]

内容

設定値	内容
<DSR>	DSR 信号設定
<CTS>	CTS 信号設定
,	区切り記号 (0x2c)

<DSR>

設定値	内容
ON	ON 固定
OFF	OFF 固定
DTR	DTR ON のとき DSR ON、DTR OFF のとき DSR OFF
RTS	RTS ON のとき DSR ON、RTS OFF のとき DSR OFF
CTS	CTS の制御線入力値

<CTS>

設定値	内容
ON	ON 固定
OFF	OFF 固定
DTR	DTR ON のとき CTS ON、DTR OFF のとき CTS OFF
RTS	RTS ON のとき CTS ON、RTS OFF のとき CTS OFF
IN	CTS の制御線入力値

設定例

IN, IN DSR : 制御線入力値、CTS : 制御線入力値
ON, IN DSR : ON 固定、CTS : 制御線入力値

！ 注意 ！

- ・ **RTS 指定**
ハードウェアフロー制御の場合、RTS 出力は内部 FIFO（シリアル通信デバイス）が制御しています。DSR、CTS に使用される RTS 信号は、FIFO 前段で出力指定されている信号です。
（リモート COM 時の PC からの RTS 出力指定等）
- ・ **DTR 指定**
本製品に DTR 信号はないため、仮想的に出力指定されている信号です。
（リモート COM 時の PC からの DTR 出力指定、コネクション通知機能で出力指定等）
- ・ **CTS 指定**
DSR の CTS 指定は本設定で制御された CTS でなく、CTS の信号入力値です。

ソフトウェアフロー制御タイマ

ソフトウェアフロー制御時の XOFF 状態を解除する 10ms 単位のタイマ値を設定します。
設定範囲は[99999]で、設定範囲は[0 から 99999 の 10 進データ]です。
0 を設定した場合は、タイマによる XOFF 状態の解除は行ないません。

汎用設定レジスタ

ユーザアプリケーションや、将来的な機能拡張用の汎用設定値を設定します。
設定範囲は[半角 15 文字までの文字列データ]です。
アルファベットの太文字、小文字は区別され、そのまま設定されます。

4 動作パラメータ設定方法

本製品が動作するときに必要な各種パラメータの設定およびユーザプログラムのダウンロードを、WEB から行う方法、シリアルインタフェースから行う方法、TELNET から行う方法、FTP から行う方法、専用ツール「BLC-200 リモートセットアップ」から行う方法の5種類を用意しています。

動作パラメータの設定およびユーザプログラムのダウンロードを行うには、動作モードスイッチを「7」に設定して「設定モード」で起動します。（WEB および BLC-200 リモートセットアップからの設定は、動作モードスイッチ「0」～「3」：運用モード動作時にも設定を行うことが可能です。）

専用ツール「BLC-200 リモートセットアップ」からの設定方法については、別冊「BLC-200 リモートセットアップ オペレーションマニュアル」を参照してください。

4-1 WEBからの設定

本製品のパラメータの設定をWEBから行う場合は、ブラウザを起動させ、アドレスバーに直接、自IPアドレス（例http://192.168.200.254）を入れて、WEBメニューへログインします。設定操作の詳細は、「5 WEB設定メニュー」を参照してください。

4-2 シリアルインタフェースからの設定

本製品のパラメータの設定をシリアルインタフェースから行う場合は、市販のターミナルソフト等を使用します。

本製品とパソコン（以下 PC と記します）を RS-422・485 インタフェース経由で接続し、ターミナルソフトを使用して対話形式で設定を行います。通信パラメータは、「9600bps, 8bit DATA, EVEN Parity, 1ストップビット, フロー制御なし」固定です。

設定操作の詳細は、「6 設定メニュー」を参照してください。

本製品の電源再投入またはリセットをすることにより、設定したパラメータが有効になります。

4-3 TELNETからの設定

本製品のパラメータの設定を TELNET クライアントから行う場合は、すでに設定されている「自IPアドレス」を用いて設定します。

TELNETでログインしたあと、対話形式で設定を行います。設定操作の詳細は、「6 設定メニュー」を参照してください。

本製品の電源再投入またはリセットをすることにより、設定したパラメータが有効になります。

4-4 FTPからの設定

本製品のパラメータの設定をFTPクライアントから行う場合は、すでに設定されている「自IPアドレス」を用いて設定します。

FTPクライアントからのコマンドで動作パラメータの設定、ユーザプログラムのダウンロードを行うことができます。

本製品の電源再投入またはリセットをすることにより、設定したパラメータが有効になります。

FTPクライアントからのパラメータの設定方法

- ① FTPクライアントから自IPアドレスを入力してオープンします。
- ② リモートファイル名 [BLC200.CFG] でGETしてください。
- ③ 変更するパラメータを書き換えます。
- ④ リモートファイル名 [BLC200.CFG] でPUTしてください。
- ⑤ FTPクライアントからクローズします。

設定内容はSTAT コマンド (QUOTE STAT) で参照できます。

以下に操作の一例を示します。

```
ftp>open 192.168.200.254          —————> ①
220 BLC-200 FTP server version x.xx ready.
User (192.168.200.254: (none)):      ・          リターンキーを押します。
230 User logged in.

ftp>get BLC200.CFG                —————> ②
200 Port set okay.
150 File status okay; about to open data connection.
226 Closing data connection, file transfer successful.
```

```
[BLC200.CFG  ] をエディタなどで編集    —————> ③
```

```
ftp>put BLC200.CFG                —————> ④
200 Port set okay.
150 File status okay; about to open data connection.
226 Closing data connection, file transfer successful.

ftp>close                          —————> ⑤
221 FTP service closing control connection.
```

FTP による設定ファイルは以下のフォーマットになっています。

```
BLC-200 (V1.00) : _MAC_Address_ = _00:A0:C2:xx:xx:xx
Own_IP_ = _192.168.200.254
Own_Port_ = _257
Dest_IP_ = _2.2.2.2
Dest_Port_ = _514
Gateway_ = _2.2.2.2
Subnet_ = _255.255.255.0
Connect_Timer_ = _2
Keep_Alive_Timer_ = _10
Idle_Timer_ = _0
Client_Connect_ = _1
User_Name_ = _''
Password_ = _''
File_Terminator_ = _[0, _00, _00]
BOOTP_ = _0
DHCP_ = _0
Auto_Negotiation_ = _0
MTU_ = _1500
Baud_Rate_ = _9600
DataLen_ = _8
Parity_ = _N
StopBit_ = _1
Flow_ = _0
Record_Terminator_ = _[0, _00, _00]
DTR_status_ = _0
DSR_status_ = _0
RS_IdleTimer_ = _0
SNMP_ = _0
Trap_IP_ = _0.0.0.0
Object_ID_ = _''
GetCommunity_ = _'public'
SetCommunity_ = _'public'
TrapCommunity_ = _'public'
Contact_ = _''
Location_ = _''
Name_ = _''
Authen_Trap_ = _0
Program1_ = _''
Program2_ = _''
Program3_ = _''
Program4_ = _''
Program5_ = _''
Program6_ = _''
Program7_ = _''
Program8_ = _''
Program9_ = _''
Program10_ = _''
Program11_ = _''
```

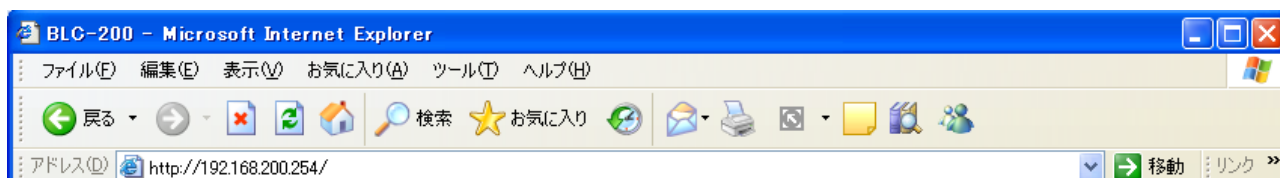
```
Program12△=△'  
Program13△=△'  
Program14△=△'  
Program15△=△'  
Program16△=△'  
LAN△Default△=△'SockUdp'  
RS△Default△=△'Serial'  
RS Enable = 'NONE,NONE'  
RS NoActTime = '0'  
RS EchoChk = 'OFF'  
RS Xonoff Code = '11,13'  
RS ExBps = ''  
RS DsrCts = 'DTR,IN'  
RS SoftTime = '0'  
Reg0 = ''
```

アルファベットの大文字、小文字の区別をしています。必ず上記の文字列を使用してください。
ファイル中のスペースコード(△)を削除したり 2 文字以上にしたりしないでください。

5 WEB設定メニュー

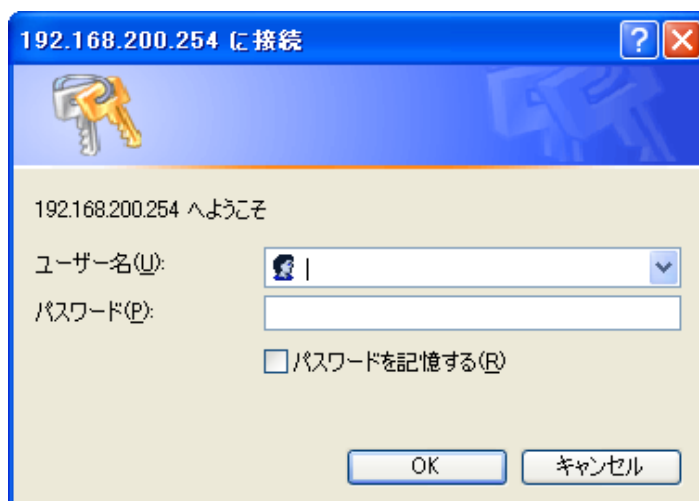
5-1 アクセス方法

ブラウザのアドレスフィールド（URL）に、「http://（自 IP アドレス）/」と入力する事でアクセスします。（下図参照）



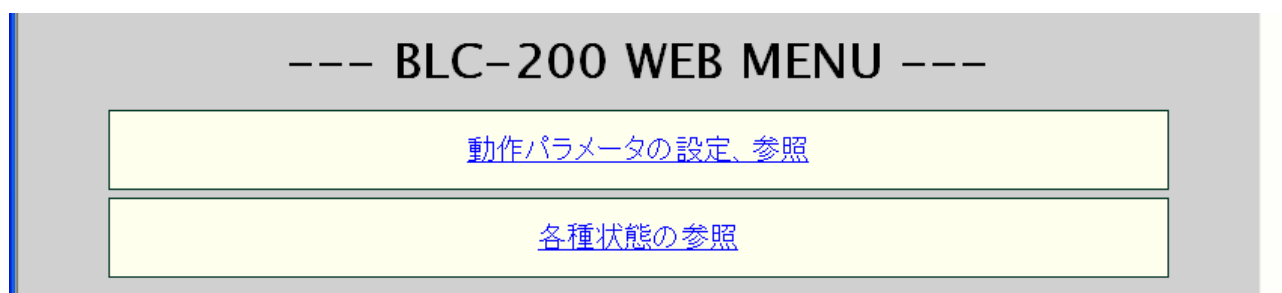
5-2 ユーザ認証

設定パラメータで指定されている「ユーザ名」および「パスワード」にてログインします。未設定の場合はそのまま OK ボタンを押すとログインします。



5-3 WEBメインメニュー

ログインに成功すると以下の画面を表示します。（※ 画面は BLC-200 のメニュー画面です。）



上記のメインメニューから、「動作パラメータ設定、参照」または「各種状態の参照」のどちらかを選びそれぞれの設定・参照画面へ入ります。

5-4 動作パラメータの設定・参照メニュー

「動作パラメータの設定、参照画面」を選択すると以下の画面を表示します。

[メニュー画面に戻る](#)

LAN設定

自IPアドレス	192.168.200.254	自ポート番号	257
宛先IPアドレス	2.2.2.2	宛先ポート番号	514
サブネットマスク	255.255.255.0	デフォルトゲートウェイ	2.2.2.2
コネクトタイ	2	オートネゴシエーション	<input checked="" type="radio"/> 自動 <input type="radio"/> 100M固定 <input type="radio"/> 10M固定
通信リカバリー	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	無通信監視タイ	0
ユーザ名		パスワード	
フィルターモード	<input checked="" type="radio"/> なし <input type="radio"/> 1文字 <input type="radio"/> 2文字	区切り文字(16進)	
BOOTP設定	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効	DHCP設定	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
キープaliveタイ	0	MTU値	1500

SNMP設定

SNMP設定	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効	TRAP先IP	0.0.0.0
識別番号		コミュニティ違反Trap	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
GETコミュニティ名	public		
SETコミュニティ名	public		
TRAPコミュニティ名	public		
Contact			
Location			
Name			

シリアル設定

回線速度	<input type="radio"/> 110 <input type="radio"/> 300 <input type="radio"/> 1200 <input type="radio"/> 2400 <input type="radio"/> 4800 <input checked="" type="radio"/> 9600 <input type="radio"/> 19200 <input type="radio"/> 38400 <input type="radio"/> 57600 <input type="radio"/> 115200 <input type="radio"/> 230400 <input type="radio"/> 460800 <input type="radio"/> 614400 <input type="radio"/> 921600 <input type="radio"/> 1843200		
データ長	<input type="radio"/> 7bit <input checked="" type="radio"/> 8bit	パリティ	<input checked="" type="radio"/> なし <input type="radio"/> 偶数 <input type="radio"/> 奇数
ストップビット	<input checked="" type="radio"/> 1bit <input type="radio"/> 2bit	フロー制御	<input checked="" type="radio"/> なし <input type="radio"/> RTS-CTS <input type="radio"/> XON-XOFF
ポートフィルター	<input checked="" type="radio"/> なし <input type="radio"/> 1文字 <input type="radio"/> 2文字	区切り文字(16進)	
コネクション情報通知	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効	コネクション監視	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
アイドルタイ	0		

システム設定

LANデフォルトプロトコル	SockUdp	RSデフォルトプロトコル	Serial
---------------	---------	--------------	--------

起動プログラム 1		起動プログラム 2	
起動プログラム 3		起動プログラム 4	
起動プログラム 5		起動プログラム 6	
起動プログラム 7		起動プログラム 8	
起動プログラム 9		起動プログラム 10	
起動プログラム 11		起動プログラム 12	
起動プログラム 13		起動プログラム 14	
起動プログラム 15		起動プログラム 16	

拡張設定

送受信ケーブル制御切り替え	NONE, NONE	送信前無通信検出時間	0
エコーチェック	OFF	XON/XOFFコード	11,13
拡張回線速度		制御線入力	DTR,IN
ソフトウェアフロー制御タイ	0	汎用設定レジスタ	

WEB からの LAN 設定

各項目の WEB からの LAN 設定は以下のとおりです。

- ・ 自 IP アドレス
WEB からの自 IP アドレスの設定をします。
- ・ 自ポート番号
WEB からの自ポート番号の設定をします。
- ・ 宛先 IP アドレス
WEB からの宛先 IP アドレスの設定をします。
- ・ 宛先ポート番号
WEB からの宛先ポート番号の設定をします。
- ・ デフォルトゲートウェイ
WEB からのデフォルトゲートウェイの設定をします。
- ・ サブネットマスク
WEB からのサブネットマスクの設定をします。
- ・ コネクトタイマ
WEB からのコネクトタイマの設定をします。
- ・ クライアント接続契機
WEB からのクライアント接続契機の設定をします。
- ・ 無通信監視タイマ
WEB からの無通信監視タイマの設定をします。
- ・ ユーザ名
WEB からのユーザ名の設定をします。
- ・ パスワード
WEB からのパスワードの設定をします。
- ・ ファイルターミネータ
WEB からのファイルターミネータの設定をします。
- ・ BOOTP 設定
WEB からの BOOTP 設定の設定をします。
- ・ DHCP 設定
WEB からの DHCP 設定の設定をします。
- ・ オートネゴシエーション
WEB からのオートネゴシエーションの設定をします。
- ・ キープアライブタイマ
WEB からのキープアライブタイマの設定をします。
- ・ MTU 値
WEB からの MTU 値の設定をします。
- ・ メニュー画面に戻る
セットアップメニューからメニュー画面に戻る場合は、画面上の「メニュー画面に戻る」を選択してください。
- ・ 設定
WEB から設定する場合は、セットアップメニューで各項目の変更したい所を変更した後に「設定」ボタンを選択して設定してください。
- ・ 元に戻す
セットアップメニューで設定した各項目を元に戻したいときは、「元に戻す」ボタンを選択すると各項目の設定値が初期値に戻ります。

SNMP 設定

各項目の WEB からの SNMP 設定は以下のとおりです。

- ・ SNMP 設定
WEB からの SNMP 設定の設定をします。
- ・ TRAP 先 IP

- WEB からの TRAP 先 IP の設定をします。
- ・ 識別番号
WEB からの識別番号の設定をします。
- ・ GET コミュニティ名
WEB からの GET コミュニティ名の設定をします。
- ・ SET コミュニティ名
WEB からの SET コミュニティ名の設定をします。
- ・ TRAP コミュニティ名
WEB からの TRAP コミュニティ名の設定をします。
- ・ Contact
WEB からの Contact の設定をします。
- ・ Location
WEB からの Location の設定をします。
- ・ Name
WEB からの Name の設定をします。
- ・ Trap 設定
WEB からの Trap 設定の設定をします。

シリアル設定

各項目の WEB からのシリアル設定は以下のとおりです。

- ・ 回線速度
WEB からの回線速度の設定をします。
- ・ データ長
WEB からのデータ長の設定をします。
- ・ パリティ
WEB からのパリティの設定をします。
- ・ ストップビット長
WEB からのストップビット長の設定をします。
- ・ フロー制御
WEB からのフロー制御の設定をします。
- ・ レコードターミネータ
WEB からのレコードターミネータの設定をします。
- ・ コネクション情報通知
WEB からのコネクション情報通知の設定をします。
- ・ コネクション監視
WEB からのコネクション監視の設定をします。
- ・ アイドルタイマ
WEB からのアイドルタイマの設定をします。

システム設定

各項目の WEB からのシステム設定は以下のとおりです。

- ・ 起動プログラム名 1 ～ 16
WEB からの起動プログラム名 1 ～ 16 の設定をします。
- ・ LAN デフォルトプロトコル名
WEB からの LAN デフォルトプロトコル名設定をします。
- ・ RS デフォルトプロトコル名
WEB からの RS デフォルトプロトコル名の設定をします。

拡張設定

各項目の WEB からの拡張設定は以下のとおりです。

- ・ 送受信イネーブル制御切り替え
WEB からの送受信イネーブル制御切り替え設定をします。

- ・ 送信前無通信検出時間
WEB からの送信前無通信検出時間を設定します。
- ・ エコーチェック
WEB からのエコーチェック有効／無効を設定します。
- ・ XON/XOFF コード
WEB からの XON/XOFF コードを設定します。
- ・ 拡張回線速度
WEB からの拡張回線速度を設定します。
- ・ 制御線入力
WEB からの制御線入力を設定します。
- ・ ソフトウェアフロー制御タイマ
WEB からのソフトウェアフロー制御タイマ値を設定します。
- ・ 汎用設定レジスタ
WEB からの汎用設定レジスタを設定します。

各種状態の参照

本製品のシステム情報、搭載アプリケーション情報、シリアル制御線情報、動作プロセスを確認することができます。

--- BLC-200 STATUS ---

システム情報

動作モード	セットアップ[A]	システムバージョン	0.13	MACアドレス	00A0C2-FFFA6B
-------	-----------	-----------	------	---------	---------------

搭載アプリケーション

アプリケーション名	バージョン
なし	

シリアル制御線状態

RTS	OFF	DTR	OFF
DSR	OFF	CTS	OFF

動作プロセス

プロセスID	プロセス名
1	RmtSetup
2	Httpd
3	Setup
4	FtpSv
5	TelnetSv

更新

メニュー画面に戻る

Copyright (C) BITS CO.,LTD. 2008, All rights reserved.

システム情報

システム情報の内容は、以下の通りです。

- ・ 動作モードを表示します。
- ・ システムバージョンを表示します。
- ・ MAC アドレスを表示します。

搭載アプリケーション

搭載アプリケーションの内容は、以下の通りです。

- ・ 搭載アプリケーション名を表示します。
- ・ バージョンを表示します。

シリアル制御線状態

BLC-200 はシリアルの制御線状態を表示します。シリアル制御線状態の内容は、以下の通りです。

- ・ RTS の状態を ON/OFF で表示します。
- ・ DTR の状態を ON/OFF で表示します。
- ・ DSR の状態を ON/OFF で表示します。
- ・ CTS の状態を ON/OFF で表示します。

動作プロセス

- ・ 現在、動作中のプロセスを表示します。

更新

- ・ 画面上の「更新」を選択すると、最新の各種状態の参照になります。

メニュー画面に戻る

- ・ 状態参照からメニュー画面に戻る場合は、「メニュー画面に戻る」を選択してください。

6 設定メニュー

本製品の動作パラメータの設定をシリアルインタフェースまたは TELNET から行う場合、ターミナル画面に表示されるメニューにしたがって操作します。

6-1 操作方法

- ①メニュー画面では各メニュー項目についている数字またはアルファベットを入力してリターンキーを押すことで次に進みます。
- ②入力した文字はバックスペースキー（「BS」または「BackSpace」）で戻ることができます。
- ③項目値の設定時は、値を直接入力します。選択肢が表示される項目はそれぞれの項目についている番号を入力してリターンキーを押して確定します。

6-2 トップメニュー

シリアルインタフェースから設定を行う場合、本製品の電源投入またはリセットを行うと以下の画面を表示します。

```
Select Group
1 = LAN    2 = RS-422/485    4 = SNMP    5 = System    6 = RS Setting
7 = Parameter File    8 = Download    9 = Program List
```

TELNET から設定を行う場合、ログインすると以下の画面を表示します。

```
Select Group
1 = LAN    2 = RS-422/485    4 = SNMP    5 = System    6 = RS Setting
9 = Program List    0 = Quit
```

各項目の意味は以下のとおりです。

- ・ LAN
[1(crlf)] と入力すると LAN 設定メニュー（6－3 参照）を表示します。
- ・ RS-422/485
[2(crlf)] と入力するとシリアル設定メニュー（6－4 参照）を表示します。
- ・ SNMP
[4(crlf)] と入力すると SNMP 設定メニュー（6－5 参照）を表示します。
- ・ System
[5(crlf)] と入力するとシステム設定メニュー（6－6 参照）を表示します。
- ・ General
[6(crlf)] と入力すると拡張設定メニュー（6－7 参照）を表示します。
- ・ Parameter File （※1）
[7(crlf)] と入力すると設定ファイルメニュー（6－8 参照）を表示します。
- ・ Download （※1）
[8(crlf)] と入力するとユーザプログラムのダウンロード（6－9 参照）を行います。
- ・ Program List
[9(crlf)] と入力するとダウンロードされているユーザプログラムと組込み済みのシステムプログラムの一覧（6－10 参照）を表示します。
- ・ Quit （※2）
[0(crlf)] と入力するとログアウトし、TELNET の接続を切断します。

※1 TELNET からの設定では表示されません。

※2 シリアルインタフェースからの設定では表示されません。

6-3 LAN設定メニュー

トップメニューで「1(crlf)」を入力すると、以下の画面を表示します。

```
Select Item
1 = Own IP    2 = Own Port    3 = Dest IP    4 = Dest Port    5 = Gateway
6 = Subnet    7 = Connect Timer  8 = Keep Alive Timer  9 = Idle Timer
A =Client Connect  B = User Name    C = Password    D = File Terminator
E = BOOTP     F = DHCP       G = Auto Negotiation  H = MTU
L = List All   0 = Quit
```

各項目の意味は以下のとおりです。

- Own IP
[1(crlf)] と入力すると自 IP アドレスの設定値を表示、変更します。
- Own Port
[2(crlf)] と入力すると自ポート番号の設定値を表示、変更します。
- Dest IP
[3(crlf)] と入力すると宛先 IP アドレスの設定値を表示、変更します。
- Dest Port
[4(crlf)] と入力すると宛先ポート番号の設定値を表示、変更します。
- Gateway
[5(crlf)] と入力するとデフォルトゲートウェイの設定値を表示、変更します。
- Subnet
[6(crlf)] と入力するとサブネットマスクの設定値を表示、変更します。
- Connect Timer
[7(crlf)] と入力するとコネクタイマの設定値を表示、変更します。
- Keep Alive Timer
[8(crlf)] と入力するとキープアライブタイマの設定値を表示、変更します。
- Idle Timer
[9(crlf)] と入力すると無通信監視タイマの設定値を表示、変更します。
- Client Connect
[A(crlf)] と入力するとクライアント接続契機の設定値を表示、変更します。
- User Name
[B(crlf)] と入力するとユーザ名の設定値を表示、変更します。
- Password
[C(crlf)] と入力するとパスワードの設定値を表示、変更します。
- File Terminator
[D(crlf)] と入力するとファイルターミネータの設定値を表示、変更します。
- BOOTP
[E(crlf)] と入力すると BOOTP 設定の設定値を表示、変更します。
- DHCP
[F(crlf)] と入力すると DHCP 設定の設定値を表示、変更します。
- Auto Negotiation
[G(crlf)] と入力するとオートネゴシエーション設定の設定値を表示、変更します。
- MTU
[H(crlf)] と入力すると MTU の設定値を表示、変更します。
- List All
[L(crlf)] と入力すると LAN 設定の全ての設定値を表示します。
- Quit
[0(crlf)] と入力するとトップメニューに戻ります。

自 IP アドレスの設定値の表示・変更

LAN 設定メニューで「1(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

Own IP = 192.168.200.254
New Value =

新しい自 IP アドレスを入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

自ポート番号の設定値の表示・変更

LAN 設定メニューで「2(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

Own Port = 257
New Value (between 0 and 65535) =

新しい自ポート番号を入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

宛先 IP アドレスの設定値の表示・変更

LAN 設定メニューで「3(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

Dest IP = 2.2.2.2
New Value =

新しい宛先 IP アドレスを入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

宛先ポート番号の設定値の表示・変更

LAN 設定メニューで「4(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

Dest Port = 257
New Value (between 0 and 65535) =

新しい宛先ポート番号を入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

デフォルトゲートウェイの設定値の表示・変更

LAN 設定メニューで「5(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

Gateway = 2.2.2.2
New Value =

新しいデフォルトゲートウェイを入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

サブネットマスクの設定値の表示・変更

LAN 設定メニューで「6(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
Subnet = 255.255.255.0  
New Value =
```

新しいサブネットマスクを入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

コネクタイマの設定値の表示・変更

LAN 設定メニューで「7(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
Connect Timer = 2  
New Value (between 2 and 120) =
```

新しいコネクタイマを入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

キープアライブタイマの設定値の表示・変更

LAN 設定メニューで「8(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
Keep Alive Timer = 0  
New Value (between 0 and 240) =
```

TCP ソケットが接続されたあと、データの送受信がないときに、接続相手の存在確認のパケット (Keep-Alive パケット) を送信する間隔を秒単位で設定します。

設定フォーマットは [999] で、設定範囲は [0~240 の 10 進データ] です。

値が 0 の場合、Keep-Alive パケットを送信しません。

7 回連続して Keep-Alive パケットに対する応答がないと接続を切断します。

無通信監視タイマの設定値の表示・変更

LAN 設定メニューで「9(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
Idle Timer = 0  
New Value (between 0 and 240) =
```

無通信監視タイマ値を秒単位で設定します。この設定はソケットクライアントが参照します。設定フォーマットは [999] で、設定範囲は [0~240 の 10 進データ] です。

設定された秒数の間データの転送がないと接続中のソケットを切断します。

クライアント接続契機の設定値の表示・変更

LAN 設定メニューで「A(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
Client Connect = MANUAL
Select New Value
1 = AUTO    2 = MANUAL
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

ユーザ名の設定値の表示・変更

LAN 設定メニューで「B(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
User Name = ''
New Value =
```

新しいユーザ名を入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと《ユーザ名=なし》の設定になります。ユーザ名の長さは半角 15 文字以内です。それより長い部分は無視します。

パスワードの設定値の表示・変更

LAN 設定メニューで「C(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
Password = ''
New Value =
```

新しいパスワードを入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと《パスワード=なし》の設定になります。パスワードの長さは半角 15 文字以内です。それより長い部分は無視します。

ファイルターミネータの設定値の表示・変更

LAN 設定メニューで「D(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
File Terminator = [0, 00, 00]
New Value =
```

新しいファイルターミネータを入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

ファイルターミネータを《なし》に設定する場合、「0(crlf)」と入力します。

ファイルターミネータを 1 文字設定する場合、「1,XX(crlf)」(XX はターミネータ文字の 16 進コード)と入力します。

ファイルターミネータを 2 文字設定する場合、「2,XX,XX(crlf)」(XX はターミネータ文字の 16 進コード)と入力します。

BOOTP 設定の設定値の表示・変更

LAN 設定メニューで「E(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
BOOTP = DISABLE
Select New Value
1 = ENABLE    2 = DISABLE
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

DHCP 設定の設定値の表示・変更

LAN 設定メニューで「F(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
DHCP = DISABLE
Select New Value
1 = ENABLE    2 = DISABLE
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

オートネゴシエーション設定の設定値の表示・変更

LAN 設定メニューで「G(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
Auto Negotiation = AUTO
Select New Value
1 = AUTO    2 = 100M    3 = 10M
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

MTU 値の設定値の表示・変更

LAN 設定メニューで「H(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
MTU = 1500
New Value (between 512 and 1500) =
```

設定範囲の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

パケットの MTU（最大転送単位）を設定します。

設定フォーマットは [9999] で、は [512~1500 の 10 進データ] です。

6-4 シリアル設定メニュー

トップメニューで「2(crlf)」を入力すると、以下の画面を表示します。

```
Select Item
 1 = Baud Rate   2 = DataLen   3 = Parity   4 = StopBit   5 = Flow
 6 = Record Terminator  7 = DTRstatus   8 = DSRstatus   9 = RS Idle Timer
 L = List All    0 = Quit
```

各項目の意味は以下のとおりです。

- ・ Baud Rate
[1(crlf)] と入力すると回線速度の設定値を表示、変更します。
- ・ DataLen
[2(crlf)] と入力するとデータ長の設定値を表示、変更します。
- ・ Parity
[3(crlf)] と入力するとパリティの設定値を表示、変更します。
- ・ StopBit
[4(crlf)] と入力するとストップビット長の設定値を表示、変更します。
- ・ Flow
[5(crlf)] と入力するとフロー制御の設定値を表示、変更します。
- ・ Record Terminator
[6(crlf)] と入力するとレコードターミネータの設定値を表示、変更します。
- ・ DTRstatus
[7(crlf)] と入力すると DTR status の設定値を表示、変更します。
- ・ DSRstatus
[8(crlf)] と入力すると DSR status の設定値を表示、変更します。
- ・ RS IdleTimer
[9(crlf)] と入力すると RS IdleTimer の設定値を表示、変更します。
- ・ List All
[L(crlf)] と入力するとシリアル設定の全ての設定値を表示します。
- ・ Quit
[0(crlf)] と入力するとトップメニューに戻ります。

回線速度の設定値の表示・変更

シリアル設定メニューで「1(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
Baud Rate = 9600
Select New Value
 1 = 110   2 = 300   3 = 1200   4 = 2400   5 = 4800   6 = 9600   7 = 19200
 8 = 38400 9 = 57600 A = 115200 B = 230400 C = 460800 D = 614400
 E = 921600
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

データ長の設定値の表示・変更

シリアル設定メニューで「2(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
DataLen = 8
New Value (between 7 and 8) =
```

新しいデータ長を入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

パリティの設定値の表示・変更

シリアル設定メニューで「3(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
Parity = None
Select New Value
1 = None 2 = EVEN 3 = ODD
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

ストップビット長の設定値の表示・変更

シリアル設定メニューで「4(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
StopBit = 1
New Value (between 1 and 2) =
```

新しいストップビット長を入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

フロー制御の設定値の表示・変更

シリアル設定メニューで「5(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
Flow = None
Select New Value
1 = None 2 = RTS/CTS 3 = Xon/Xoff
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

レコードターミネータの設定値の表示・変更

シリアル設定メニューで「6(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
Record Terminator = [2, 0D, 0A]
New Value =
```

新しいレコードターミネータを入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

レコードターミネータを《なし》に設定する場合、「0(crlf)」と入力します。

レコードターミネータを1文字設定する場合、「1,XX(crlf)」(XXはターミネータ文字の16進コード)と入力します。

レコードターミネータを2文字設定する場合、「2,XX,XX(crlf)」(XXはターミネータ文字の16進コード)と入力します。

コネクション情報通知の設定値の表示・変更

シリアル設定メニューで「7(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
DTR status = DISABLE
Select New Value
1 = ENABLE 2 = DISABLE
```

コネクション状態をシリアル DTR 信号にて通知する機能を有効／無効に設定します。この設定はソケットサーバ、ソケットクライアント、FTP サーバが参照します。

値が0の場合、コネクション状態の通知が無効となります。

値が1の場合、コネクションが開通すると DTR ON、切断すると DTR OFF を出力します。

DTR 信号の ON/OFF により、シリアルに接続した機器が LAN のコネクション状態を検出することが可能となります。

コネクション監視の設定値の表示・変更

シリアル設定メニューで「8(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
DSR status = DISABLE
Select New Value
1 = ENABLE 2 = DISABLE
```

コネクションの開通／切断をシリアル DSR 信号により制御する機能を有効／無効に設定します。この設定はソケットサーバ、ソケットクライアントが参照します。

値が0の場合、コネクション監視が無効となります。

値が1の場合、DSR ON でコネクション開通が可能となり、DSR OFF でコネクションを切断します。

シリアルに接続した機器が LAN のコネクションを DSR 信号の ON/OFF により、制御することが可能となります。

アイドルタイマの設定値の表示・変更

シリアル設定メニューで「9(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

RS Idle Timer = 0 New Value (between 0 and 9999) =

シリアル受信キャラクタ間の空き時間（アイドル）により、シリアル受信データの区切りとしてソケットに送信するタイマを ms 単位で設定します。この設定は FTP サーバ、ソケットサーバ、ソケットクライアント、UDP スルーが参照します。

設定フォーマットは [9999] で、設定範囲は [0～9999 の 10 進データ] です。

6-5 SNMP設定メニュー

トップメニューで「4(crlf)」を入力すると、以下の画面を表示します。

```
Select Item
1 = SNMP    2 = Trap IP    3 = Object ID    4 = GetCommunity    5 = SetCommunity
6 = TrapCommunity    7 = Contact    8 = Location    9 = Name    A = Authan Trap
L = List All    0 = Quit
```

各項目の意味は以下のとおりです。

- ・ SNMP
[1(crlf)] と入力すると SNMP の設定値を表示、変更します。
- ・ Trap IP
[2(crlf)] と入力すると Trap IP の設定値を表示、変更します。
- ・ Object ID
[3(crlf)] と入力すると Object ID の設定値を表示、変更します。
- ・ Get Community
[4(crlf)] と入力すると Get Community の設定値を表示、変更します。
- ・ Set Community
[5(crlf)] と入力すると Set Community の設定値を表示、変更します。
- ・ Trap Community
[6(crlf)] と入力すると Trap Community の設定値を表示、変更します。
- ・ Contact
[7(crlf)] と入力すると Contact の設定値を表示、変更します。
- ・ Location
[8(crlf)] と入力すると Location の設定値を表示、変更します。
- ・ Name
[9(crlf)] と入力すると Name の設定値を表示、変更します。
- ・ Authan Trap
[A(crlf)] と入力すると Authan Trap の設定値を表示、変更します。
- ・ List All
[L(crlf)] と入力すると List All の設定値を表示、変更します。
- ・ Quit
[0(crlf)] と入力するとトップメニューに戻ります。

SNMP の設定値・表示

SNMP 設定メニューで「1(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
SNMP = DISABLE
Select New Value
1 = ENABLE    2 = DISABLE
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

Trap 先 IP の設定値・表示

SNMP 設定メニューで「2(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
Trap Ip = 0.0.0.0  
New Value =
```

新しい Trap Ip アドレスを入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

識別番号の設定値・表示

SNMP 設定メニューで「3(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
Objected = ''  
New Value =
```

新しい識別番号を入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと《識別番号=なし》の設定になります。ユーザ名の長さは半角 15 文字以内です。それより長い部分は無視します。

Get コミュニティ名の設定値・表示

SNMP 設定メニューで「4(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
Get Community = ''  
New Value =
```

新しい Get コミュニティ名を入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと《Get コミュニティ名=なし》の設定になります。ユーザ名の長さは半角 15 文字以内です。それより長い部分は無視します。

Set コミュニティ名の設定値・表示

SNMP 設定メニューで「5(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
Set Community = ''  
New Value =
```

新しい Set コミュニティ名を入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと《Set コミュニティ名=なし》の設定になります。ユーザ名の長さは半角 15 文字以内です。それより長い部分は無視します。

Trap コミュニティ名の設定値・表示

SNMP 設定メニューで「6(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
Trap Community = ''  
New Value =
```

新しい Trap コミュニティ名を入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと《Trap コミュニティ名=なし》の設定になります。ユーザ名の長さは半角 15 文字以内です。それより長い部分は無視します。

Contact の設定値・表示

SNMP 設定メニューで「7(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
Contact = ''  
New Value =
```

新しい Contact 名を入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと《Contact コミュニティ名=なし》の設定になります。ユーザ名の長さは半角 64 文字以内です。それより長い部分は無視します。

Location の設定値・表示

SNMP 設定メニューで「8(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
Location = ''  
New Value =
```

新しい Location 名を入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと《Location コミュニティ名=なし》の設定になります。ユーザ名の長さは半角 64 文字以内です。それより長い部分は無視します。

Name の設定値・表示

SNMP 設定メニューで「9(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
Name = ''  
New Value =
```

新しい Name 名を入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと《Name コミュニティ名=なし》の設定になります。ユーザ名の長さは半角 64 文字以内です。それより長い部分は無視します。

Trap 設定の設定値・表示

SNMP 設定メニューで「A(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
AuthenTrap = DISABLE  
Select New Value  
1 = ENABLE 2 = DISABLE
```

選択する項目の番号を入力してリターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

6-6 システム設定メニュー

トップメニューで「5(crlf)」を入力すると、以下の画面を表示します。

Select Item				
1 = Program1	2 = Program2	3 = Program3	4 = Program4	5 = Program5
6 = Program6	7 = Program7	8 = Program8	9 = Program9	A = Program10
B = Program11	C = Program12	D = Program13	E = Program14	
F = Program15	G = Program16	H = LAN Default	J = RS Default	
L = List All	0 = Quit			

各項目の意味は以下のとおりです。

- Program1
[1(crlf)] と入力すると起動プログラム 1 の設定値を表示、変更します。
- Program2
[2(crlf)] と入力すると起動プログラム 2 の設定値を表示、変更します。
- Program3
[3(crlf)] と入力すると起動プログラム 3 の設定値を表示、変更します。
- Program4
[4(crlf)] と入力すると起動プログラム 4 の設定値を表示、変更します。
- Program5
[5(crlf)] と入力すると起動プログラム 5 の設定値を表示、変更します。
- Program6
[6(crlf)] と入力すると起動プログラム 6 の設定値を表示、変更します。
- Program7
[7(crlf)] と入力すると起動プログラム 7 の設定値を表示、変更します。
- Program8
[8(crlf)] と入力すると起動プログラム 8 の設定値を表示、変更します。
- Program9
[9(crlf)] と入力すると起動プログラム 9 の設定値を表示、変更します。
- Program10
[A(crlf)] と入力すると起動プログラム 10 の設定値を表示、変更します。
- Program11
[B(crlf)] と入力すると起動プログラム 11 の設定値を表示、変更します。
- Program12
[C(crlf)] と入力すると起動プログラム 12 の設定値を表示、変更します。
- Program13
[D(crlf)] と入力すると起動プログラム 13 の設定値を表示、変更します。
- Program14
[E(crlf)] と入力すると起動プログラム 14 の設定値を表示、変更します。
- Program15
[F(crlf)] と入力すると起動プログラム 15 の設定値を表示、変更します。
- Program16
[G(crlf)] と入力すると起動プログラム 16 の設定値を表示、変更します。
- LAN Default
[H(crlf)] と入力すると LAN デフォルトプロトコルの設定値を表示、変更します。
- RS Default
[J(crlf)] と入力すると RS デフォルトプロトコルの設定値を表示、変更します。
- List All
[L(crlf)] と入力するとシステム設定の全ての設定値を表示します。
- Quit
[0(crlf)] と入力するとトップメニューに戻ります。

起動プログラム名の設定値の表示・変更

システム設定メニューで「1」～「9」または「A」～「G」と「(crLf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。(99: 1～16)

```
Program99 = ''  
New Value =
```

新しい起動プログラム名を入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと《起動プログラム名=なし》の設定になります。起動プログラム名の長さは半角 12 文字以内です。それより長い部分は無視します。

LAN デフォルトプロトコルの設定値の表示・変更

システム設定メニューで「H(crLf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
LAN Default = 'FtpSv'  
New Value =
```

新しい LAN デフォルトプロトコルを入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと《LAN デフォルトプロトコル=なし》の設定になります。LAN デフォルトプロトコルの長さは半角 12 文字以内です。それより長い部分は無視します。

RS デフォルトプロトコルの設定値の表示・変更

システム設定メニューで「J(crLf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
RS Default = 'Serial'  
New Value =
```

新しい RS デフォルトプロトコルを入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと《RS デフォルトプロトコル=なし》の設定になります。RS デフォルトプロトコルの長さは半角 12 文字以内です。それより長い部分は無視します。

6-7 拡張設定項目 1～8 設定メニュー

トップメニューで「6(crlf)」を入力すると、以下の画面を表示します。

```
Select Item
1 = RS Enable    2 = RS NoActTime  3 = RS EchoChk   4 = RS Xonoff Code
5 = RS ExBps     6 = RS DsrCts    7 = RS SoftTime  8 = Reg0    L = List All
0 = Quit
```

各項目の意味は以下のとおりです。

- ・ RS Enable
[1(crlf)] と入力すると送受信イネーブル制御切り替えの設定値を表示、変更します。
- ・ RS NoActTime
[2(crlf)] と入力すると送信前無通信検出時間の設定値を表示、変更します。
- ・ RS EchoChk
[3(crlf)] と入力するとエコーチェックの設定値を表示、変更します。
- ・ RS Xonoff Code
[4(crlf)] と入力すると XON/XOFF コードの設定値を表示、変更します。
- ・ RS ExBps
[5(crlf)] と入力すると拡張回線速度の設定値を表示、変更します。
- ・ RS DsrCts
[6(crlf)] と入力すると制御線入力の設定値を表示、変更します。
- ・ RS SoftTime
[7(crlf)] と入力するとソフトウェアフロー制御タイマの設定値を表示、変更します。
- ・ Reg0
[8(crlf)] と入力すると汎用設定レジスタの設定値を表示、変更します。
- ・ List All
[L(crlf)] と入力するとシステム設定の全ての設定値を表示します。
- ・ Quit
[0(crlf)] と入力するとトップメニューに戻ります。

送受信イネーブル制御切り替えの設定値の表示・変更

システム設定メニューで「1(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
RS Enable = '1, TXE'
New Value =
```

新しい設定値を入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

送信前無通信検出時間の設定値の表示・変更

システム設定メニューで「2(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
RS NoActTime = '0'
New Value =
```

新しい設定値を入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

エコーチェックの設定値の表示・変更

システム設定メニューで「3(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
RS EchoChk = 'OFF'
New Value =
```

新しい設定値を入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

XON/XOFF コードの設定値の表示・変更

システム設定メニューで「4(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
RS Xonoff Code = '11,13'
New Value =
```

新しい設定値を入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

拡張回線速度の設定値の表示・変更

システム設定メニューで「5(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
RS ExBps = ''
New Value =
```

新しい設定値を入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

制御線入力の設定値の表示・変更

システム設定メニューで「6(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
RS DsrCts = 'DTR, IN'
New Value =
```

新しい設定値を入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

ソフトウェアフロー制御タイマの設定値の表示・変更

システム設定メニューで「7(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

```
RS SoftTime = '0'
New Value =
```

新しい設定値を入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと現在の値を変更しません。正しくない値を入力した場合、「Input is out of range」と表示しますので、正しい値を入力してください。

汎用設定レジスタの設定値の表示・変更

システム設定メニューで「8(crlf)」を入力すると、現在の設定値を以下のように表示します。

Reg0 = '' New Value =

新しい設定値を入力し、リターンキーを押すと確定します。何も入力せずにリターンキーを押すと《汎用設定レジスタ＝なし》の設定になります。汎用設定レジスタの長さは半角 15 文字以内です。それより長い部分は無視します。

6-8 設定ファイルメニュー

トップメニューで「7(crlf)」を入力すると、以下の画面を表示します。

```
Select Item
1 = Put Parameter   2 = Get Parameter   0 = Quit
```

各項目の意味は以下のとおりです。

- Put Parameter

「1(crlf)」と入力すると設定ファイルのダウンロード待ちになります。ターミナルソフトの「テキスト送信機能」（機能の名称はターミナルソフトにより異なります）を使用して設定ファイルを送信します。

設定ファイルのフォーマットは「4-4 FTP からの設定」の設定ファイルと同じです。
正常に設定が行われると、以下のメッセージを表示します。

```
Download Successfully Completed
Select Item
1 = Put Parameter   2 = Get Parameter   0 = Quit
```

設定ファイルにエラーがあった場合、以下のメッセージを表示しますので、設定ファイルの内容を確認してください。

```
Download Stopped by Error
Select Item
1 = Put Parameter   2 = Get Parameter   0 = Quit
```

- Get Parameter

「2(crlf)」と入力すると設定ファイルの内容を表示します。

「2(crlf)」と入力する前にターミナルソフトの「ログ記録機能」（機能の名称はターミナルソフトにより異なります）を使用して、受信内容をファイルに保存するようにします。設定ファイルの内容に続いて設定ファイルメニューが表示されましたら、「ログの記録」を停止します。

記録したファイルを以下のように編集します。

- 記録したファイルの先頭行が、
「BLC-200(VX.XX): MAC Address = 00:A0:C2:XX:XX:XX」
となるようにします。
- 記録したファイルの終わりにある設定メニューの行を削除します。

- Quit

「0(crlf)」と入力するとトップメニューに戻ります。

6-9 プログラムダウンロード

トップメニューで「8(crlf)」を入力すると、「Program Download Ready」と表示されます。ここで、ターミナルソフトの「テキスト送信機能」（機能の名称はターミナルソフトにより異なります）を使用して「モトローラS」形式のプログラムファイルを送信します。

!注意!

- ・ ダウンロードしたプログラムはそのままでは動作しません。プログラム一覧で表示されるプログラム名を、システム設定の起動プログラムに設定してください。

6-10 プログラム一覧

トップメニューで「9(crlf)」を入力すると、以下のようなプログラム一覧を表示します。

-rwxrwxrwx	user	user	65536	Vx.xx	XXXXXXXXXXXX
-r-xr-xr-x	sys	sys	2048	Vx.xx	FtpSv
-r-xr-xr-x	sys	sys	2048	Vx.xx	RmtSetup
-r-xr-xr-x	sys	sys	2048	Vx.xx	Setup
-r-xr-xr-x	sys	sys	2048	Vx.xx	SockSv
-r-xr-xr-x	sys	sys	2048	Vx.xx	SockCl
-r-xr-xr-x	sys	sys	2048	Vx.xx	Httpd
-r-xr-xr-x	sys	sys	2048	Vx.xx	Snmp
-r-xr-xr-x	sys	sys	2048	Vx.xx	Serial
-r-xr-xr-x	sys	sys	2048	Vx.xx	TelnetSv
-r-xr-xr-x	sys	sys	2048	Vx.xx	SockUdp

↑ プログラム名です。この名称を起動プログラムに設定します。

7 注意事項・制限事項

本製品は「設定モード」で起動すると、シリアルインタフェース、TELNET、FTP のどこからでも設定できますが、これらのインタフェースには優先順位があります。優先順位の高いインタフェースから設定が行われている間は、優先順位の低いインタフェースからは値の参照のみが可能となり、書き換えを伴う操作はできなくなります。インタフェースの優先順位は高い方から、FTP、TELNET、シリアルインタフェースです。

※ WEB 設定には制限および優先順位はありません。

8 ユーザプログラム ダウンロード方法

本製品は個別に作成したユーザプログラムを内部に読み込んで専用機として運用することができます。本章ではこの読み込む（ダウンロード）方法について説明します。

ダウンロードには大きく分けて FTP クライアントからダウンロードする方法と、シリアルインタフェースからダウンロードする方法の2種類があります。TELNETからのダウンロードはできません。

なお、ダウンロード可能なファイルは「モトローラS」形式のファイルのみです。

8-1 FTPクライアントからのダウンロード

FTP クライアントからファイルをダウンロードします。

- ① モードスイッチを「7」（設定モード）に設定します。
- ② 本製品の電源を再投入するか、リセットを行います。
- ③ FTPクライアントからリモートファイル名 [XXXXX.mot] でPUTします。
- ④ ダウンロード結果をLISTコマンドで確認します。
- ⑤ 動作プログラム 1～16 パラメータの起動のいずれかにプログラム名を設定します。

8-2 シリアルインタフェースからのダウンロード

市販のターミナルソフトのテキスト送信機能により、シリアルインタフェースからファイルをダウンロードします。

- ① 電源が入っていないことを確認して、PCを専用のシリアルクロスケーブルで接続します。
- ② PCの電源を入れ、ターミナルソフトを起動します。
- ③ モードスイッチを「7」（設定モード）に設定します。
- ④ 本製品の電源を投入します。
- ⑤ メニューにそってダウンロードを実行します。
- ⑥ 動作パラメータの起動プログラム 1～16 のいずれかにプログラム名を設定します。
- ⑦ 電源切ってからケーブルを外します。

9 カーネルプログラム ダウンロード方法

本製品のシステムがバージョンアップした場合にカーネルプログラムをダウンロードする必要があります。本章ではカーネルプログラムのダウンロード方法について説明します。

カーネルプログラムのダウンロードはシリアルインタフェースから行う方法、FTP から行う方法の2種類があります。

なお、ダウンロード可能なファイルは「モトローラS」形式のファイルのみです。

9-1 FTPクライアントからのダウンロード

FTP クライアントからファイルをダウンロードします。

- ① モードスイッチを「6」（ローダモード）に設定します。
- ② 本製品の電源を再投入するか、リセットを行います。
- ③ FTPクライアントからプログラムを下記リモートファイル名でPUTします。
カーネルプログラム : KERNEL.MOT
- ④ ダウンロード結果をLISTコマンドで確認します。

9-2 シリアルインタフェースからのダウンロード

市販のターミナルソフトのテキスト送信機能により、シリアルインタフェースからカーネルファイルをダウンロードします。通信パラメータは、「9600bps, 8bit DATA, EVEN Parity, 1 ストップビット, RTS/CTS フロー制御」固定です。

- ① 電源が入っていないことを確認して、PCを専用のシリアルクロスケーブルで接続します。
- ② PCの電源を入れ、ターミナルソフトを起動します。
- ③ モードスイッチを「6」（ローダモード）に設定します。
- ④ 本製品の電源を投入します。電源を投入すると以下のメッセージを出力します。

```
Kernel Loader Ver. x.xx Ready  
Kernel version x.xx are loaded
```

- ① カーネルプログラムのダウンロードを実行します。成功すると以下のメッセージを出力します。

```
..... done  
Completed
```

- ① 電源切ってからケーブルを外します。

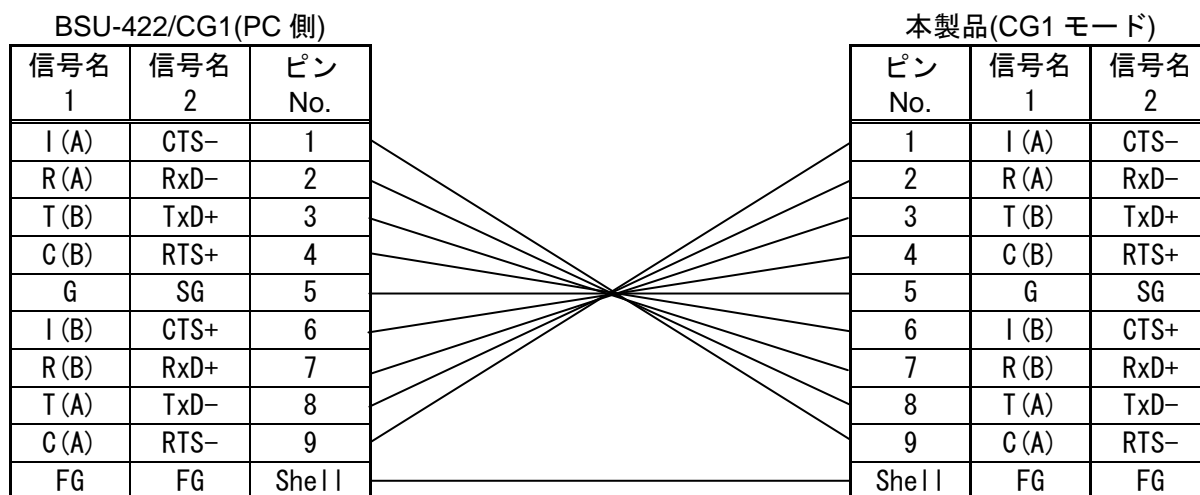
!注意!

- ・ ダウンロードに失敗すると本製品が正常に動作しなくなる場合があります。ダウンロードに失敗した場合は、お手数ですが弊社営業までご一報ください。

10 シリアルケーブル結線表

シリアルインタフェースからの設定を行う際に、接続するシリアルケーブルの結線表の例を以下に示します。

接続する対向機は、RS-422/USB 変換アダプタ BSU-422/CG1 を例にしております。詳しくは、BSU-422/CG1 の取扱説明書などをごらんいただき正しく接続してください。





〒141-0031 東京都品川区西五反田8-11-13 五反田マークビル9階

TEL : 03-3779-2190

FAX : 03-3779-2198

E-mail : miechan@bits.co.jp

ホームページ : <http://miechan.jp>